

しのばず自然観察会より 2020-06 2020.06.25

しのばず自然観察会今後の活動について

☆新型コロナウイルス感染拡大防止のために、しのばず自然観察会では3月より3密を避け人が集まる行為を自粛してきました。政府の緊急事態宣言は5月25日に解除となりました。しかし、その後も東京都では新感染者数が一日当たり2桁で推移し、都県境をまたぐ外出自粛の要請が6月19日まで続いていました。また、公共輸送機関の込み具合も新型コロナ流行前に近づきつつあります。そこで大事をとって、しのばず自然観察会の野外活動と室内学習会の停止を7月半ばまで続けようと思います。また、活動再開に当たっては、活動時間の短縮、暑さへの対応など、これまで以上の配慮が求められそうです。一人一人の体調判断や不参加の決断も重要になります。

活動再開は、7月中下旬～8月はじめころの不忍池蓮見を考えていますが、暑さ対策で時間・場所の選択も検討課題です。それで活動規模は蓮池散策程度からになります。蓮の花は8月上旬でほぼ終わります。希望の月日があれば7月10日までにお知らせください。

(代表幹事 小川潔)

☆遠くへ出かけることを自粛せざるを得ない今こそ、身の回りの自然を再認識するチャンス、会員の身近な話題をお寄せください。本通信やホームページで紹介します。

不忍池のハス つぼみ色づく

不忍池のハスは5月半ばには新芽が出そろった段階でしたが、6月17日には、薄桃色のつぼみが見られるようになりました(写真)。昨年は6月19日に開花が見られているので、ほぼ同じペースです。

昨年は蓮池の南西端や弁天堂周辺で早めの開花があり、少し遅れて東側に移り、南西端では早めに花が終わりました。

ところで、花の写真を拡大して見ると、たくさん



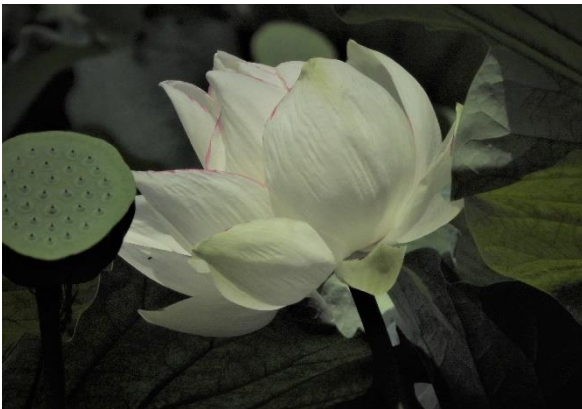
の虫がいます。羽根を持つものもありアブラムシのようです。羽根がないものも多く、つぼみが水面の上に出てから繁殖したのでしょうか？



2017年の不忍池蓮見から—白い花のハス—

2017年8月13日の観察会（不忍池蓮見）でハスの白い花が見つかりました。当日観察会に参加された筑波大学の腰塚昭温さんによると、ハスの花の色は桃色が顕性（旧称優性）で、白が潜性（旧称劣性）とのこと。また、単純な桃色と白だけでなく、桃色と白の割合がいろいろに現れることもあるそうです。ちなみにこの日に写した写真をよく見ると、白い花卉の端が薄く桃色に縁取られていました。

ネットで検索すると、京都花蓮研究会のホームページに、不忍池斑蓮（まだらはず別称不忍池白蓮）という品種が掲載されていました。白花で辺縁が筋状に紫紅色という解説があり、上に紹介した白いハスの花にぴったりでした。2018年、2019年の夏に探しましたが、白花のハスには会えませんでした。花の時期にうまく出会えなかったのか、個体が花をつけなかったのか、あるいは枯れたのか、わかりません。



桃色の縁取りがある白花のハス



不忍池では普通に見られる桃色花のハス

不忍池のハスは「ジバス」と呼ばれていますが、江戸時代以降、ハスの品種がいろいろ植えられたようです。今では特別区別される品種は残っていません。東京都東部公園緑地事務所によって10年ほど前にいくつかの品種が再導入されましたが、すべて枯れました。

池畔にある五条天神社の本殿天井画は、薬草を当時（昭和初期）の美術学校（現・東京芸術大学美術学部）の教員・学生が描いたものですが、その中にハスの花があります（写真右）。花卉の先端に朱色の模様が入り、図案のようにも見えます。他の薬草類は割りとリアルな絵なので、もしかしてこのハスも実在したのでしょうか。



しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL: <http://sinobazu.extrem.ne.jp>
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円 ほかに行事参加費

2019年以前の会費未納の方もお忘れなく！ 退会の場合は早めに葉書で事務局へ。